



2026年5月15日

各位

会社名 瀧上工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 瀧上 晶義
(コード：5918 東証スタンダード・名証メイン)
問合せ先 執行役員管理本部長 香村 哲也
(電話番号：0569-89-2101)

「瀧上グループ中期経営計画」の見直しに関するお知らせ

当社は、2024年5月に、2027年3月期までの3か年（第88期～第90期）を対象とする第5次中期経営計画を公表し、最終年度における当社グループ連結の数値目標として、売上高288億円、営業利益8.4億円、経常利益12.7億円を掲げております。

本計画においては、「変革とチャレンジ」を基本方針に掲げ、中長期的な視点で基幹事業ポートフォリオの最適化を進めるとともに、事業利益の向上を目指し、事業戦略、財務戦略および経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

しかしながら、足元の事業環境につきましては、国内における新設鋼橋発注量の低迷や、鉄骨需要の伸び悩みなどにより、第5次中期経営計画策定時に想定していた前提条件との間に乖離が生じております。

こうした環境変化を踏まえ、第5次中期経営計画の最終年度を迎えるにあたり、これまでの進捗状況を総合的に勘案した結果、下記のとおり計画内容の一部見直しを行うことといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 中期経営計画見直しの理由と今後の方針について

①新設橋梁部門

新設橋梁部門においては、第5次中期経営計画策定時には、鋼道路橋の発注量を年間15万t程度と想定しておりましたが、実際の発注量は年々これを下回って推移しており、今期においては前年度実績である年間9万tをさらに下回る見込みとなっております。

今期につきましては、中部地区を重点とした受注戦略を継続するとともに、他地域への営業活動も展開し、受注機会の拡大を図ってまいります。併せて、受注競争力を左右する技術提案力の一層の向上を目指すとともに、工場製作においては製造プロセスの見直しによる利益率向上および不適合品の削減に取り組めます。

②橋梁保全部門

橋梁保全部門においては、グループ全体ではおおむね計画どおりの進捗となりました。今後とも橋梁保全部門は成長分野としてとらえ、来期以降を見据えた新たな受注戦略を展開してまいります。また鋼橋に限定されない多様な保全工事への対応力強化を図ります。

③鉄骨・鉄構事業

鉄骨・鉄構事業においては、第5次中期経営計画策定時には年間約400万tの発注量を見込んでおりましたが、実績では、想定を下回る年間350万t程度で推移しております。

今期につきましては、過年度に実施した設備投資により、生産体制は今後の受注増にも対応可能な状態となっております。また、2024年10月にM&Aにより取得した株式会社菊池鉄工所との協業効果も徐々に顕在化しつつあり、今期においては一定の受注機会の拡大を見込んでおります。一方で、原価管理や生産管理に課題が残っていることから、全体的な事業収益力の改善を図ってまいります。

2. 数値目標の見直し

(単位：億円)

連結総事業		2026/3	第5次 中期経営計画	
		89期	2027/3 90期	
		実績	計画	修正計画
売上高	鋼構造物製造事業	207	249	208
	その他の事業	27	39	27
	計	234	288	235
営業利益	鋼構造物製造事業	3.2	3.4	△0.9
	その他の事業	1.6	5.0	2.9
	計	4.8	8.4	2.0
営業利益率		2.1%	2.9%	0.9%
経常利益		14.1	12.7	11.0
経常利益率		6.0%	4.4%	4.7%

3. 株主、投資家の皆様へ

本見直しは、短期的な計画未達への対応にとどまるものではなく、当社グループが直面する課題を改めて洗い出し、持続的な企業価値向上を実現するための取り組みであります。今後の不透明な事業環境の変化に柔軟に対応するため、次期中期経営計画を見据え、新たな事業ポートフォリオの検討を軸に、組織および業務改革を進め、今後もDXの推進、人材育成、社員エンゲージメントの向上、サステナビリティへの取り組みを通じて、経営基盤の強化に継続して努めてまいります。

以上